令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　自分にできること　」

鹿児島県　奄美市立朝日中学校　２年　福元（ふくもと）　愛渚（まな）

「まだ、雨が続いているのか。」

今年の夏は、東北地方のニュースを見るたびに心配になった。私の大好きなりんごが泥水で腐り、家や車が水に浸かり、道路が陥没している映像の数々。中には、土砂災害で建物が押し流されているのを見ると、「せっかくのお盆なのに。どんなに困っていらっしゃることだろう。」と切ない気持ちになった。

「あっという間に水が上がってきた。とても逃げられない。これから、何から手を付ければいいのか。」

と、落胆して、ぼう然と立ち尽くす人々。災害の恐ろしさを痛感した。

近年の温暖化のせいだろうか。「100 年に一度」と言われるような大雨がたびたび降り、水害が毎年、日本のどこかで起こっている。８月の１か月分の雨が、１日で降ったという。

私の住んでいる奄美は、台風もよく通り、大雨に見舞われることもある。４年前の９月の台風では、私が通っていた朝日小学校の裏山が崩れた。その道を通る人たちは、遠回りをして登下校をしていた。

今年の４月に大島支庁の土木建設課の方々による「土砂災害防止」の出前授業があった。実際に起こった地滑り、土石流等の映像を見せてもらった。本当に地面が滑り、木々や電柱が跡形もなく流れていく映像に驚いた。自然の脅威の前に人間は、無力なのだとがく然とさせられた。

また、災害を防ぐためにがけを法枠工で固めたり、「砂防ダム」を建設したりしていることも教えてもらった。砂防ダムの効果についてビー玉を用いた実験で見せてくれた。砂防ダムがあると、土砂に見立てたビー玉の大半は、止まり、家屋は守られることがよく分かった。私は、登校時に「砂防ダム、建設中です」と書かれた看板を見つけた。砂防ダムの効果を知り、とても安心できた。

大島支庁の方が、こう語られた。

「情報を知り、やはり『早めの避難』が１番大切です。このことは、お家の人とも話し合ってくださいね。」

私は、東北地方の大雨の映像を見ながら、母と土砂災害について話し合った。母は、こんな話をしてくれた。

「今年は鹿児島市で起こった８・６水害から 29 年経つけど、ちょうど、お母さんが働き始めた年でね。その年の８月３日は、お母さんが住んでいた地域でも、水害があったのよ。その時、お母さんは、国分の町に買い物に行っていて、戻ってきたら、びっくり。すでに天降川が堤防を越えて氾濫していて、お母さんの住んでいたアパートの駐車場は、水がたまっていたのよ。水は、瞬く間に増えて、アパートの１階は、水に浸かってしまったの。そして、何より悲しかったのは、お母さんの働いていた学校に通っていた女の子が、土砂崩れに巻き込まれて亡くなってしまったのよ。何年経っても忘れられない出来事だよ。」

私は、母の話を聞いて、改めて、自然災害は恐ろしいことだと感じた。自然災害は、身近な人や大切な人の命さえ奪うときがある。その女の子の家族は、どんなに悲しかっただろう。そう思うと、胸が痛くなった。

自然災害は、いつ起こるか分からない。私に何ができるだろうか――。考えてみた。

１つ目は、キキクルなどを使い、早めに情報を集めることだ。そして、ハザードマップで、家の近くの危険な場所はどこか、避難所はどこかを確認しておきたい。今住んでいる所は、４階なので、水に浸かる心配はないが、山が目の前なので、気になるところだ。

２つ目は、すぐ避難できるような準備をしておこうと思う。リュックに着替え、懐中電灯、タオルなどをすぐ入れられるように準備しておきたい。やはり、日頃の備えは大事だと思う。

３つ目は、災害などが起こるのは、両親が家にいるときばかりとは限らないので、避難の方法を家族で話し合っておきたい。また、同じマンションの人と日頃からあいさつを交わすなど、顔見知りになっておくことも大切だと思う。

４つ目は、学校で行う避難訓練を真剣に行うことだ。以前ニュースで見たが、被害に遭われた人が「訓練をしていたので、冷静に逃げることができました。」と語っておられたことを思い出した。

私は、今、当たり前の日常を過ごしている。しかし、土砂災害などで家や財産を一瞬で無くしてしまった人もいる。災害募金があったらぜひ協力したい。

当たり前の日常や、生活の安全を守ってくれている多くの人に感謝し、自分にできることをしていきたいと感じた夏になった。